

## 第2回「寒河江市学校施設整備計画」地域説明会 質疑応答

会場：南部小学校 体育館

日時：令和4年10月23日（日）10時00分から12時00分

参加人数：15名

出席者：教育長

学校教育課長（兼）学校再編整備室長

学校再編整備室 室長補佐（兼）係長

学校再編整備室 学校再編整備係主任

（学校教育課長）

ご質問のある方。

（発言者 A）

意見を申し上げる機会を設けていただきましたことに感謝したいと思います。メモしておりますので、そんなに時間かからないと思います。1つ目です。今回の資料では、新たに3つずつ検討案が示されたわけですが、私個人としては理解しにくいと思います。選択肢や検討案はもっともっと意見だしていただければ、たくさんあるはずではないのか。なぜ、3つずつの検討案を提示するのか、急いでいるような感じがします。今まで議論してきたなかにはないB案が提示されました。他の公共施設をプラスして中学校を1校にすればいいとか、小学校1校を一気に1校にすればいいとか、市民から出た意見なのか、あまりそういう意見は見当たらないのではないかと感じております。従いまして、現時点では市民から出たものを検討案としてあげてもらえばいいので、そういったものとは違うという感じがします。あり方検討委員会がありました。議論がまとまらないときに、教育委員会ではロードマップをこれでどうかと出した。3本の道があるよ。どっちに行くの。急いで市民に選択を迫るような感じがします。市民の意見をより一層聞く姿勢をもっていただければありがたい。そういう意味で今日もあるわけですが、もっと説明会に来ていただけるようにしていただき、PTAは役員だけでなく、各地域で平等に接してほしいし、他の自治体でしているように教職員の声聞こえませんか、いろんな事情もあると思いますが、それを吸い上げる工夫をするとか、現場を知っている方の声を吸い上げて十分考えてほしいです。

2つ目です。南部小学校は、検討案にはふれられておりません。存続させる選択肢があるはずだと思います。整備計画そのままですが、令和13年度を目度に、寒河江小と統合することを前提に検討していきます。検討だからいいのではないかという方もいらっしゃると思いますが、しかし、その前に行われたあり方検討委員会で、教育現場を一番よく知っている校長先生のグループですが、南部小、柴橋小の存続を支持しているんですね。一番知っている人が存続を支持している、幼児の保護者のグループも支持している。4グループのうち、2つのグループが支持している。我々はそういうことを知らない。南部地区の人口は、4740人で西川町とほぼ同数、こういった人口規模のコミュニティに小学校があるのはあ

る意味で当然なことではないでしょうか。200人規模の小学校で統合を前提に考えるのは、かなり無理があるなど、正直、私は思います。やがて廃校になると今回の整備計画で決まったとなると、若い人たちは南部地区を進んで選ばなくなるのではないのでしょうか。地域の衰退を早めることになりはしないかなと思います。最後に、南部小が廃校になるだろう整備計画を前にして、存続を求める声も聞こえず、地域でどうすべきかという意見交換すらなかったとすれば、いよいよ統合となったときに、若い人たちからは何を考えていたのだろうと言われそうな気がします。大事なことは、議論が大事かなと思います。よろしくお願いしたいと思います。

(教育長)

ありがとうございます。3つの検討案を今回お示しさせていただいたのは、これまでいろいろご意見をいただいて、多くの案といいますか、それらの意見をまとめて、なるべく議論をしていただきたいということです。先ほどの説明にもありましたように、この3つの案から選んでくださいということではなくて、いろんなご意見をいただきたいたい意図でだしております。聞く姿勢について、このように説明会を開催しております。前回の説明会のときになるべく多くの方にきていただきたいたいということで、19時30分から各小学校で開催しましたが、なかなか夜は、例えば子どもさんの塾であったり、習い事であったりで参加しにくいということもあったので、今回は日中も設定しました。説明会の会場についても、今回は小学校ですが、文化センターなどをいろいろ使って、なるべく来やすいところにきていただけるようにしているところです。保護者の方々の意見もというのは、その通りだと思ひまして、この説明会の他のところでも保護者向けの説明会をやってほしいというご意見をいただいております。そうしたことを踏まえて、保護者向けの説明会を開催することを考えて計画をしようとしているところでございます。いろいろな意見を聞きたいという姿勢でやっているところです。

2点目の南部小については、お気持ちは十分わかりますし、そうした南部小を残してほしいというご意見や、これから柴橋小学校の近くのコミュニティセンターでも説明会をしますが、柴橋小を残してほしいといったご意見が出ることも考えられるわけです。そうしたご意見を踏まえ、この整備計画も今後5年ごとの見直しということでもありますし、こちらの南部小、柴橋小、寒河江小、寒河江中部小は、検討を開始するという段階ですので、今後、検討委員会をつくりながらやっていくということになっていくと思いますので、ご理解いただければと思います。

(学校教育課長)

その他ご質問のある方。

(発言者B)

私からは強い要望をしたいと思います。前回の話とだぶるところがありますが、今日の説明会の資料、いわゆる少子化がベースになっている。小学校、中学

校すべてにおいてどんどん減っていく。少子化では、国が少子化担当大臣まで設けて、本来は一番頑張らなければならないのは、国の政策だと思うのですが、要望というのは、国の政策をこえて、自治体によって、出生率、例えば、ちょっと前の新聞ですが、これは岡山県の小さい町の例ですが、出生率が1.41から2.95に向上している、改善になったと具体例がありまして、具体的には岡山県で、自治体が少子化について、国をこえてきちんとした対策・政策をとって、具体的な成果をあげている。それだけでなく、いろんな自治体で出生率を伸ばしているところもあるわけで、そういう意味では、役所とは優先度、緊急度などがポイントになってくる中で、最初の方が言ったように、地域がすたれる方向性の対策ではなくて、地域が元気になるようなそういう対策こそ優先的にやるべきではないかと思います。いま言ったように、いろんな自治体の取り組みが現時点であるわけですから、優先度、緊急度を踏まえた上で、出生率の向上、少子化対策、国をこえた少子化対策を早急に取り組んでいただきたいと思います。以上です。

（教育長）

今の件、私もそう思います。今の記事については、私もこのようにノートに貼って見ておりますし、出生率をあげるのは大事なことだと思います。この岡山県の例を見ますと、どのような対策をやっているかということ、高校生までの医療費無償化であったり、給食の補助であったりということに頑張ってきていると書いてありました。寒河江市でも18歳までの医療費無償化、給食費の無料化、保育所等の副食費の補助とかいろいろやってきました。例えば、国勢調査で2015年から2020年までの人口の減少率について言えば、山形県内の35市町村すべてがマイナスに転じています。県全体の減少率は4.9%でしたが、寒河江市の減少率は2.5%とだいぶおさえられていると思います。また、合計特殊出生率も、令和2年度の数字ですが、県は1.37、市は1.46ということで、県よりも高い値を示しております。これは、これまでの市の対応等の成果の1つだと思っているところです。今後ともそうした面の政策は続けていかなければならないと思っているところです。

（学校教育課長）

その他ご質問ある方。

（発言者C）

教員ですので、昔話を聞いていただきながら、ご認識ということでお伺いしたいと思います。私は、他の自治体で1万4千人の町だったのですが、数年勤務しました。隣の学校が統廃合になり、その小学校は、児童の数が9人だったと思います。その学校は、PTA活動、子どもたちの活動もなかなか大変だった。そして、地域の声があがって、隣の小学校と一緒にするという流れだったかと思いません。山形に戻って市外に赴任しました。小さな小学校です。その町は小さい学校があったのですが、子どもたちの将来を考えてどうすべきかという話になったときに地域からでまして、小学校の統廃合になっていくわけですが、やはりそれぞれの学校に明治のころからの、何とか地域に教育を残したいという地域の願

いがある、学校ができて、今の地域の現状を考えた時に、子どもたちに大切なことは何なのかと地域と子どもたちと一緒に考えて統廃合が進んできたかなと思います。そして、寒河江の統廃合ということですが、本当に厳しい状況なのかどうか。地域からの声をどのように反映しているのか。今回話を聞く機会を設けていただいてありがたいと思っているのですが、子どもたちの目線で考えていきたいと思うのですが、教育委員会の認識、子どもたちの声をどのようにとらえているのか、お聞かせいただきたいと思います。

(教育長)

1つは先ほど説明もしましたように、校舎が築年数がたってきて改築の時期になってきている。学校を作るのは何年もかかるわけで、来年統合しようとはありえないわけです。ですから、先を見通しての計画ということで、あり方検討委員会があり、その答申に基づいて計画をしたわけです。子どもたちの声というのは、例えば、それぞれの学校規模によってもいろんな声があると思いますし、お友達が増えるかもしれない、うれしいと思っている声も保護者を通じて聞くこともありましたし、今こういう形でいろいろなご意見をうかがっている段階ですので、今後、こういうふうに学校がなくなっていくということは、子どもたちにもきちんと説明をしていきたいと思っています。

(発言者C)

子どもたちのことを一番に考えていただきたいということを申し上げたいと思います。この南部小もそうだと思うのですが、地域の声があって、思いがあってできた学校を統廃合していくんだということを気持ちの中でお示しいただくといいのかなと思いますし、学校が無くなるということは、地域に学校が無くなる、特に小学校ですが、勤務しております小学校でも地域の方の協力が本当に多くて、その前、三泉小にもおりましたが、三泉のさくらんぼおじさん、鮭おじさんなどかわりが密で、地域の方々もいきいきと学校にくるという姿を見ております。子どもたちもそういった姿を見ております。これがなくなってしまうと、どうなっていくんだろうという不安は当然あると思いますので、気持ちの中でお持ちかと思いますが、地域の中の人と一緒に話を進めていくということをお願いしたいと思います。そういう意味で参加させていただきました。よろしくお願いします

(学校教育課長)

ありがとうございました。その他ございますか。

(発言者D)

資料22ページ、検討案Bについてですが、3校統合中学校プラスまちづくりと連動した公共施設とあります。他の公共施設とは具体的にどういうものなのか教えていただきたいです。もう1点、学校施設ロードマップ、小学校、中学校それぞれ3案示されました。さきほどの話では、幅広い意見を伺いたいという話を伺いました。説明会に参加したり、ホームページで意見をするのは、一部だと

思っております。そういう意味で広く寒河江市民全員の意見を聞いた方がいいと思うので、全市民アンケートのようなものをやるつもりがあるのかどうかをお聞きしたいと思います。

（学校教育課長）

ありがとうございます。公共施設の関係ですが、他県状況を見ますと陸上競技場、公民館、老人施設とか図書館とかと一体となった学校がございます。

（教育長）

いろんなご意見をいただきたいということで説明会を行ったり、ホームページにも、説明会での質疑応答等も載せているところです。全市のアンケートについては、そういった考えもあるということはお聞きしておきたいと思っております。

（発言者 E）

最初に戻るような質問で恐縮ですが、市役所のホームページを眺めてみたのですが、教育振興計画という言葉が目に入ってきました。教育長に質問ですが、教育振興計画は寒河江市の教育行政の基本的なあり方を示す憲法だととらえてよろしいでしょうか。

（教育長）

憲法と言っているのかはあれですが、教育の振興はこういった方向で行くという計画でございます。

（発言者 E）

学校施設整備計画、計画の策定を時系列にたどってみると、2019年、令和元年にあり方検討委員会が立ち上げられ、令和3年に教育振興計画の見直しが行われている。それから、2022年、今年3月（\*答申は昨年12月）にあり方検討の答申が行われ、同じ月に学校施設整備計画の策定が行われたということになります。教育振興計画の見直しがあり方検討委員会の答申を待たずに行われたのは、どうもおかしいのではないかと思います。学校の統廃合は、大なり小なり甚大な影響を及ぼすと考えますと、答申を待って、振興計画の見直しをすべきだったのではないかと。そして整備計画の策定を行うとそういうふうに進めるべきだったのではないかと。振興計画については、何のための計画であったか。それで文科省のホームページを見ますと、教育振興計画については、教育の目標、基本的な方向性を示すときちんと明記されています。寒河江市のやり方は、教育振興計画をないがしろにしている。私は、教育振興計画は憲法だと思っておりますが、この憲法がないがしろにされていると思ってしまう。この教育振興計画は単なる飾り物なのですか。

（教育長）

単なる飾りものということはありませんし、教育振興計画は教育の全体に関わっての方向性を示すものですので、これからの寒河江市の子どもたちにとつ

てどういう教育がいいか、こういった課題があるということを考えながら決めたものと認識しております。

(発言者 E)

私は、教育振興計画というのは、憲法だと思っておりますので、それを中心に教育行政を進めていくべきだと思います。計画策定時に行われたアンケート調査についてであります。ホームページを見ますとアンケートの内容が載っております。アンケートでは、児童生徒数が少ないかという質問にはじまり、適正規模についての質問、最後に適正配置のために学校の統廃合は必要かというような質問があり、しかしながら、重要なポイントであります。適正とはどういうことなのかはまったくふれられていないわけです。質問の内容や順序によっては、アンケートの結果はずいぶん違ったものになるということは、各方面で指摘されているとおりですが、教育委員会の行ったアンケートは巧妙に仕掛けられた誘導尋問じゃないかと思えてなりません。アンケートの結果を見ますと、合併の人たちよりも、生徒数が少なく統廃合の対象になっている学区の人たちの方が学校を統合して、マンモス校で教育させた方がいいと考えている。しかし、果たしてそうなのでしょうか。マンモス校がそれほどよいのでしょうか。生徒数が少ないことに劣等感でも抱いているのでしょうか。なぜ、このような結果になってしまったのか。考えてみますとやはり、アンケートの内容が誘導尋問になっている。このアンケートの重要性を私たち市民はよく理解していないのでないか。「人生の99%は思い込みである」、という言葉がありますように、ある思い込みにとらわれているからこういう結果になったと思います。その思い込みは何かというと、小規模校、あるいは複式学級は劣っていて、大規模校の方が優れているんだということがすりこまれていると思うわけであり。考えてみますと私の頭のなかにもそういった考えが染みついているような気がします。有名私立小中学校では、少人数、個別教育、対面指導を売りにしているではありませんか。いずれにせよ小規模の方が質がいいに違いありません。教育長いかがでしょうか。

(教育長)

5月のときの説明会でも申し上げましたように、小規模がだめだとか大規模ではないとだめだと言っているわけではありません。小規模にもいいことはありますし、課題もあるし、大規模にもいいところもあるし課題もあるということだと思います。アンケートが誘導するとかそういった意図でアンケートをしたのではないと認識しております。おっしゃられたご意見は、ご意見としてお聞きいたします。

(発言者 E)

最近の日本の若者は、自己肯定感が低くマイナス思考だと言われております。主体性がなくなったからだと、一番の原因だといわれています。新聞に重要な記事が載っております。ある女性の方が、島根県のある港町に移住しまして、神奈川県のマンモス校から複式学級のある学校に転校させたそうです。そうしました

ら、複式学級の子どもたちは主体性がはんばなくあって、実にいきいきしていると感じたという記事があります。主体性があるというのは、積極性があるというのは言うまでもなく、自己肯定感が強い、成長意欲があるということです。主体性の構築ということを考えても、1人1人の個性に応じた少人数教育の方が優れていると島根県の事例が物語っているんだと思います。文科省の多人数教育というのは、若者から主体性を奪ってしまって、自己肯定感が低く、引きこもりが多い。そんな日本にしているのではないか。生徒数が少なくなるのは事実かもしれませんが、寒河江市では統廃合は行わずに少人数、小中学校の一貫教育を積極的に取り入れて、選択肢の1つとして選ぶことができるんだということを寒河江の売りにすればよいのではないのでしょうか。発想を180度転換して、東京、仙台でも、寒河江独自の教育を受けさせたいと移住してくる人も増えるのではないのでしょうか。世界の教育の流れは、小さな学校、小さなクラスが教育の大きな流れです。マンモス校は時代遅れとなり、無理な統廃合を凶ってきたアメリカでは・・・。

(教育長)

お話し中ですが、主張されることはだいたいわかりましたので、他の方からのご意見も聞かせていただきたいので、よろしくお願いします。自己肯定感を育てるのはとっても大事なことで私も思っておりまして、校長会等でも自己肯定感を育ててほしいと繰り返し言っているところでございます。

(学校教育課長)

ご意見も出ておりますので、小中学校の統合についての案にいて、それ以外も含めて統合についてご意見いただければと思います。

(発言者F)

ハートフルセンターでも申し上げましたが、この計画の進め方についてはいろんな問題があると思います。今回の第2回目の説明会ということは、市民の意見をいろいろ今まで聞いてきたけれども足りないということでもよろしいでしょうか。

(教育長)

これまでご意見をうかがってきて、その場でも答えておりますが、こういった形で質問にも答えさせていただいて、それから、統廃合についてもいろいろご意見いただいているので、もっとご意見をお伺いするということでこういう会を設けております。

(発言者F)

それであれば説明会をやってもこれだけの人数。ハートフルセンターでも数えるくらいしかいませんでした。さきほどご意見があったように、市民にアンケートをとっている、パブリックコメントのタイミングがよろしくなかった。答申してからやっているんですね。こないだも申し上げましたが、こういうものは県

のやり方を参考にすべきではないか。ここにいらっしゃる方で、参加された方もいらっしゃいますけどもね。県で平成19年、山形県の中高一貫教育について諮問しました。諮問された方々はどのような進め方をしたかという、要綱を定めて、答申をする手立てとして、県民の意見を参考にしながら、方針を作るうえで、またメモとっているんですか。もう一つ、東南置賜地区において、高校再編整備について、西村山は終わってしまいましたが、あの時は河北の人が頑張ったので残ったんですよ。私は傍聴したのでよく知っています。話前後しましたが、どうなっているかという中間報告をしているんです。市民の方々に。地域の方々に。これは、検討委員会が中間報告しているんですよ。県民の方々から地域の方々から意見をもらって、ようやく答申書を書いたということです。その中にどういう文言があるか申し上げます。県立高校の再編整備に係る検討委員会、平成30年1月に、この検討について内容を地域や県民のみなさんにお知らせし、ご意見をお寄せいただくため中間報告を作成しました。今後、最終報告書をまとめますので、みなさんの意見をどうぞたくさんお寄せくださいとあります。なぜ、寒河江市のあり方検討委員会は、こういうことをしなかったのか。とても不思議です。教育長はどう思いますか。

(教育長)

あり方検討委員会の方々は、公募委員、地域の代表、保護者代表など各代表に集まっていたいて検討していただいたと認識しております。ただ、この前もありましたように検討過程、こういったことが検討されているというような周知の面では、足りなかった部分があったのではと思っております。

(発言者F)

全然だめです。第7回の寒河江市立学校のあり方検討委員会の議事録をご覧ください。ページ9に最終的に判断するのは教育委員会である。何回も言っている。4回も言っている。最終的に決めるのは教育委員会ですよ。それだと萎縮するんですよ。9ページに事務局がこの答申の仕方について、事務局案を述べております。一つは、あり方委員会に答申して、パブコメをして、答申を受けて、教育委員会で計画案を出すというのが一つです。もう一つは、答申をしてから、計画、パブリック、寒河江市のやり方じゃないですか。あり方委員会に諮問して、パブコメ、答申の手続きもありますよと説明をしていますが、事務局としては答申をしてから市教育委員会で計画を出してからパブリックコメントをした方がありがたいですなんて言っています。誘導していませんか。私はハートフルでも申し上げましたが、新聞に中学校の統廃合、市民ベースでやってくださいと提言をいたしました。7月8日に掲載されております。その中で問題点が多々あったので、それをどう市教育委員会は動いてくれるのか期待しておりましたが、守ってもらったのは議事録の開示だけです。議事録もない。それから、委員会が1校案に賛成したのが3人、2校案が5人、どちらともいえない6人という結果だったのに、結論は両論併記とし、市当局の判断にゆだねるという答申をしているんですね。とんでもない驚きですよ。中学校の数をどうするかと諮問しているにも関わらず、諮問した方にあなたがた考えてくださいと、私の考えがまとまりませ



んでした。こんなこと言っているんです、このあり方検討委員会は。そんなのはないんじゃないですか。あり方検討委員会の答申は、せめて市民との話し合いを十分に行い理解をえられるようにすることとするのが当然じゃないんですかね。冒頭に話をしましたが、説明会で出た意見は見直していくということによろしいですね。

(教育長)

現在の計画案について、最初に申し上げたとおり、こういった会を開いて、これからも説明会をしていきますが、見直する部分は見直するという事です。

(学校教育課長)

別の方からも。

(発言者 F)

いまのことに対してですから。

(学校教育課長)

最後に。

(発言者 F)

考え方が変わってきたということですね。見直すということも視野に入れてという最初のスタンスでしたよ。そこは違うということによろしいですね。

(教育長)

視野に入れるということと同じ認識でおりますが、意見を聞いて変わることはありうるということでご理解いただければと思います。

(学校教育課長)

よろしいですか。

(発言者 F)

たくさんの意見をもらうとって拒否するんですか。どうぞ保護者の方から。

(発言者 G)

1つお聞きしたいのは、もうすでに何か決まっている感じが見受けられるのですが、とくにこの土地とかを買っちゃってということはまだないと思ってよろしいですか。今の小学2年生が小学校中学校で統廃合に影響すると資料にありましたが、決まっている段階ではないと認識しているのですが、その辺りどうなのですか。

(教育長)

学校施設整備計画については、昨年の12月に答申を受けて、計画を立てて、今年の3月に教育委員会として議決して、計画としては決定したわけです。ただ、そのあとの説明会で、小学校の2段階の統合についてや、中学校は大規模すぎるのではないかと。という意見をたくさんいただいたわけです。変えるということも含めて再検討しているところです。そのために、説明会でいただいた多くの意見をまとめて、さきほど提案した3つの意見とか、または、他のところでは中学校2校案について、陵南、陵西と陵東では、生徒数の差が出てくるので、学区編成替えをして2校にしたらいのではないかと。というご意見などもでておりますので、意見を出していただければと思っております。

(発言者G)

ありがとうございました。意見なのですが、さきほど市民全体のアンケートをとってほしいとおっしゃられた方もいたのですが、子どもが影響するような親、今の小学校中学校の親が強制参加くらいの説明会をしてもらった方がより意見が集まるのかなと思いますので、検討をお願いします。

(教育長)

保護者向けの説明会等も考えていきたいと思っております。

(発言者C)

多様な学校、そして、子どもたちの教育環境を考えた場合に、寒河江市内に多くの小学校、中学校を残す方向で考えてほしいというのが私の意見です。ロードマップを見たときにA案からC案を示していただき、教育長がおっしゃったように、多様な意見を聞いていただけるということでしたので、私としては、子どもたちの教育環境、多様な学校の姿を考えた場合に多くの小中学校を残してほしいと思っております。よろしくをお願いします。

(教育長)

ご意見ありがとうございます。

(発言者H)

今回はこういった会を開いていただきありがとうございます。いくつか教えていただきたいことがあるのですが、統廃合が済んだあと、使わなくなった学校はどうなるのか。取り壊す感じになりますか。

(学校教育課長)

廃校については、市の方で個別施設計画を検討しているところです。

(発言者H)

引き続き、橋りょうなども補強して使っている話がテレビとかでもあります。根本に立ち返るようで恐縮ですが、老朽化した設備を修復して統廃合をしない

選択肢はないのか。いかがでしょうか。それと、統廃合するしない以前に、設備の老朽化のほかに少子化の生徒数の減少という話もあったのですが、そもそも減少して複式学級の状態になることに悪いということはないのではないかと思います。いかがでしょうか。

(教育長)

改築をしないでなんとかそのまま使ったらいいのではないかとというのは、1つのご意見だと思います。これまでも耐震化などもしてきておりますし、ただ、私も陵南、陵西にもおりましたが、とくに水まわりが厳しい状況になっておりまして、ちょっと水漏れすると、かなりの修理費用等もかかっている現状もあります。そうしたことも踏まえて、改築の方向でと考えたときに、子どもの数も減っていくなかで、ある程度統合して新しい良い環境で子どもたちに学ばせたいということでこうした計画になってきました。

(発言者H)

ありがとうございます。

(教育長)

複式については、複式がダメだといっているわけではございません。例えば、小さい町でどうして複式にならざるをえないということもあります。ただ、今までの教育とこれから教育で求められるのはちょっと違う部分があると思います。これまでの教育は、知識・理解を得るといいますか、そういったことに中心的な力を入れてきましたが、これからは、知識・理解をもとにして、いろんなことを考えたり、課題を見つけたりとか、そうした思考力、発想力とかを付けていきたいということがあります。そうしたことを考えた時には、いろんな意見との出会いといえますか、やりとりといえますか、その方が発想がひろがりやすいということもあると思います。そうしたことも踏まえながら、こういった計画になったということで、複式学級がダメとか、小規模がダメとかということではありません。

(発言者H)

小規模になったとしても、インターネットなどの環境も普及してきたので、人数の多いところとの交流はウェブを使って構築できるような気もするんですが。

(教育長)

そうしたことも取り入れていきたいと思っておりますし、今後とも市内だけでなく、他の県の学校との交流とか、これまでも行われてきたこともあると思いますが、なかなか設備がということもありました。しかし、今は1人1台のタブレットが全国的に小中学校に配付があるのでそうした利点を活かして、よりよい学びをしていくということも大事だと思います。

(発言者I)

小学生の子どもがおりますが、中学校の統廃合に関わってくるのですが、3校を1つにするのではなく、2つの学校の方がいいなと思っています。1つになってしまうと将来のことを見据えてだとは思いますが、人数が多すぎると思います。だんだん少なくなっていくということでお考えかと思いますが、最初に入るには多すぎるかなというのは率直な意見です。推移を見ていくと陵南だけと、陵東と陵西をあわせた学校がだんだん少なくなっていくのはわかるんですが、それでも人数的に見るとそんなにすごく少なくなるわけではなく、2校の差が大きくなることはあるかもしれませんが、のちのち3つ、もう1回統合しなければならぬくらいにはならないと思うので、2校でお願いしたいなと思います。

あとは、今さら言ってもしょうがないですが、今まで陵南中の学区に住宅地を作って、人数が多くなってきたので、まちづくりとして陵東中学区に住宅地を作って市内の人数が均等になるまちづくりをしていただければよかったですかなと思います。

(教育長)

ありがとうございます。おっしゃられましたように1校案として計画したのは、令和10年度の統合案だと987人と多い。ただ、そのあと減っていくんですね、そうしたことを考えたときに、陵東、陵西の方が減っていく。そうすると10年、20年以内にまた統合を考えなければならない。900人を超える人数は、は多すぎるとのご意見はうけたまわりたいと思います。ただ、私も900人台の学校に勤めたことがあります。大きな学校では学校行事などがダイナミックに行われて、そうした面でのよさもあります。あと、それこそ60何人くらいの小規模校での良さもわかっております。そうしたことを、どちらが絶対いいということはありませんが、今後のことや子どもたちの活動など、総合的な視点から考えて、決めていくしかないと思います。今のようなご意見も、十分に検討していきたいと思っています。

(学校教育課長)

ありがとうございました。

(発言者J)

何回か参加させていただいておまして、今回、事務局で他の案とか考え方について述べさせていただきます。まずですね、なぜこういった意見が錯綜しているのか、計画自体が学校再編、施設整備、検討課題が混ざっている気がします。今回の学校再編について述べさせていただきたいと思います。学校再編を急ぐ理由として、陵西中学校がだんだんと規模が小さくなっていくという課題がございますので、そういったことを前提に提案を申し上げたいと思います。1つとして、中学校1校あたりの生徒数を例えば600人以内とする方針などを検討できませんか。地域の実情を勘案し2校案とすること。必要な場合は、学区について検討することを提案したいと思います。もう1つ、2校案の場合、陵南、陵東・陵西の改築すること、周辺の公共施設再整備を考慮して行うことを検討する

ことであります。もう1つです。西部地区の3小学校及び三泉、西根小の統合は1回の統合とし、文化センター周辺に新設し、陵東中学校、文化センター等の再整備に合わせて行うことを検討してはどうか。重要なことですが、検討をおこなう手順を構築するため、市と市民が話し合い、協力する体制、行程を明確にして公表してほしい。以上です。

(教育長)

提案ありがとうございます。最後のところ聞き取れなかったのですが、小学校5校の統合を陵東中学校の近辺に新しい学校を建ててという提案でしょうか。

(発言者J)

いまの現在は、5校案ということになります。1回で統合というお話が前回どこかの会場でありましたので、地域の方、保護者の方がお求めになった場合ですけども、そういうことだと思います。5校を1校にした場合、あくまでも案の1つとして申し上げております。

(教育長)

ありがとうございます。

(発言者F)

この説明会のあり方について申し上げます。意見をだされるような形になっておりますね。小学校は残すべきだ、どういう風になっているんですかと必ず質問するんですね。そうすると延々と説明なされる。教育長には、発言者に対して、どういうお考えですかということをしかりと求めていただきたい。質問しているような感じに受け止めます。例えば、3校案を2校案にしてほしいとあるわけですが、いろいろ2校案あるわけですが、そういうことから1校のメリットをお話されていますよね。発言者の方はどちらをご希望なのですか、提言として発言されているのですかということをやってほしい。先ほどの方もいろんな提案されました。廃校になった場合どうなるのか。廃校になった前提としてお話をされている。そうじゃないと思います。前の意見を聞きますと、残してほしい希望をお話されているんですね。そうではなくて学区の方々は残すことを希望する、そういう風にどういう意向なのか確認してほしい。そこが大切だと思います。でないと意見としてでてこないと思いますよ。あり方検討委員会では、市が決めるんですと、4回も言っているんです。そんなこと言ったら、みんな萎縮して意見でないじゃないですか。パブリックコメントでたくさんの意見がでました。あれどうしますか。あれ変わってきたんじゃないですか、回答が。これまでのスタンスからすれば。あり方検討委員会の答申で検討してこういう回答しています。そうじゃないでしょ。いろんな意見を求めたいということですよ。意見、回答が違ってくるんじゃないですか。だからお伺いしているんです。説明会の目的はどういうことですか。変更もあるんですね。そういうことなんですよ。よろしいですか。いろいろあり方検討委員会の中身は問題はたくさんあります。見てくださいこの議事録、付箋だらけ。こんなにいっぱい問題あるんですよ。先ほどの方もおっ

しゃったアンケートも問題。私は学校給食のあり方検討委員会に委嘱されまして地域代表で出席しました。啞然としました。アンケートの取り方。事務局の都合のいいようにアンケートをとっているんです。給食おいしいですか？「おいしい」、「ふつう」、「まずい」の3つだけです。さきほど小学校の先生おわかりでしょう。せめて5つの評価があれば差別化できる。3つだったら、「ふつう」に戻ってくるんでしょ。教育長おわかりでしょ。それと同じで実態がわからない。おそらく、あまりおいしくないが多かったのではないかと思います。それが「ふつう」にいっちゃってます。アンケートの仕方も問題があった。あり方検討委員も問題があったと思います。パブコメも見直して、地域の方々にも意見を求めるようにしてください。保護者という話もありましたけど、学校は地域の問題ですよ。総合的にご案内いただきたい。総合的にというのは、地域の保護者だけの意見を求めるわけじゃないということです。よろしくお願いします。

（教育長）

意見ありがとうございます。参加された方の意図を確認するようにしていきたいと思います。

（発言者F）

どういう意見ですかと確認してください。謙虚な気持ちになっちゃう。自分の意見を主張しない、こういう風になってしまうので、教育長はこういう意見でよろしいですか。「南部小を残すという意見ですね」とこういうふうにしてほしいということです。

（教育長）

ご意見ありがとうございます。

（発言者K）

市議です。市民の方からの貴重なご意見を拝聴するため、全部の会場に足を運び、いろんな方からのご意見を傍聴させていただいておりますが、教育長の回答で何点か補足しなければと思うところがあります。まずもって、追加資料を作成させていただいて、この会場からわかりやすいロードマップを出していただいたことに感謝と敬意を示したいと思います。是非、ホームページにも入れていただきたいと要望します。市民アンケートとありましたが、寒河江市では地域や年齢に偏らないように3000人の市民を対象に、新第6次振興計画のアンケートをしております。教育委員会ではなく、市の当局ですが、1000人からの回答があり、議会にも示されました。小中学校の統合についても主な意見としてこう書いてあります。1校統合は無理なのではないか、現状維持ということも必要であるというご意見もあったと申し上げたいと思います。

3つ目、市報10月20日号にあわせて市の総合文化祭の紙も配られました。私も拝見したのですが、裏面に芸術文化協会の構成について詳しく載っております。市の無形文化財の伝統芸能、西部地区には5つあって、市全体では6つ残っているのですが、そのうちの5つが陵西学区に保存されている大事な大事

な伝統芸能なんですね。それを小学校とか地区のみなさんが大事に伝承している。これですよ。こうしたことが陵西学区に先ほどの方の発言もありましたが、私は陵西学区に1つないし2つ残していかないと伝統芸能は受け継がれない。特に寒河江の大江公が作った高松堰の話もテレビで見ましたが、そのような教育を行っているわけですよ。二の堰についても寒河江小で勉強しているわけですよ。昔の先人たちの苦勞を今後大切に守っていくためにも、学校というのは、無くてはならない文化の拠点だと思います。そういった意味で簡単に統廃合ありきの、先ほど存続は選択肢にないのかということがありましたが、まったくその通りで、すべての意見を聞くとおっしゃっているので、存続ということも含めて市民の貴重な声を聞いていただきたいなと思います。以上です。

(教育長)

ありがとうございます。中学校の2校案の方がいいだろうというご意見もあるということ、小学校の存続ということも考慮してほしいという意見として承りました。

(発言者K)

蛇足になりますが案Cの一番下、中学校について、案C測量設計をもう少し前倒しして、2校の改築も早めていく方法、前段の用地取得がなくなりますので、もう1つ、B案にしかありませんが、C案についてもまちづくりと連動した他の公共施設も追加していくべきだと思います。これは要望です。

(教育長)

要望として承りました。

(学校教育課長)

最後ということでお願ひします。

(発言者E)

質問をさえぎられるとは思ってもおりませんでした。端的に申し上げます。私は、子どもというのは、小さな小さな小舟だと思っております。子どもたちは、なにかにすがりたい、何かにつながってほしいといつも思っています。若者たちの間では、SNSが流行っておりますが、これはそういったことの裏返しなのかなと思います。このようなときに学校の大規模化を図って、子どもたちの孤立化を進めようとしている。少ない人数の教育こそが子どもたちを孤独の海から救いだすものだと思っております。今回の計画を白紙に戻して、最初からやり直して、少人数教育の良さを再評価して最初からやりなおしていただきたい。学校再編に関する市民の会が要望書を提出しました。しかし、市民の会の要望の内容が、市民が考えていることのすべてではありません。市民の会の要望は、中学校2校に統合するのは賛成で、1校統合は反対だという内容になっております。しかし、先ほど私が申し上げましたように、2校統合も1校統合も両方反対の意見も多数あると思っております。むしろ、両方反対だと、現状維持がいいと思っている人の方

が大多数だと思います。市長、教育長はこういったことを理解して白紙撤回もテーブルにのせて検討していただきたいと思います。

(教育長)

少人数での教育を大事にするという観点から、学校をそのまま残すべきというご意見ですね。

(発言者E)

地域の活性化という点、子どもの教育というのも少人数教育の利点を活かしながら、十分に維持できる。校舎の老朽化についても、これまでやりくりしてやってきた。やれないことはないと思います。ですから現状維持で、白紙に戻して再検討を求めます。

(教育長)

そういうご意見であるということはお伺いしました。

(学校教育課長)

時間も時間ですね。最後で。

(発言者F)

今回の検討案ロードマップをご覧ください。これ先ほど質問があったように、用地が決まっているんじゃないですかという質問が出るのは当たり前じゃないですか。言い忘れかもしれませんが、令和4年に用地選定ということを明確に書いてあるじゃないですか。それはおかしい話だから、みなさんから意見を聞いてということであれば、少なくとも令和5年度スタートとなるんじゃないですか。どう考えても用地選定なんて、あと半年もないのに無理ですよ。そういうことが書いてある、おかしくないですか、決まっているんじゃないと言われる材料じゃないですか。令和5年にずらす、令和4年に何かことを起こしていないロードマップにすべきだと私の考えです。

(教育長)

その図は、最初の計画案として5月に説明したものをそのままのせているのでそうなっております。さきほど説明にもありましたが、今年度に用地を決めてということではないので、ご理解いただければと思います。

(発言者F)

直すなら直して説明した方がいいと思います。

(教育長)

現在の計画として表示したと、誤解のないように説明させていただきたいと思います。



(発言者F)

誤解されると思います。

(学校教育課長)

ありがとうございます。質疑はこれで終わります。